みんないっしょ

錦が丘小学校五年　岡花那子

私は今年の三月まで父の仕事の関係でドイツの南の方にあるミュンヘンという街にいました。そこで人種のちがいによる差別の話を聞くことがありました。その経験から今回人けんについての作文を書こうと思いました。

まず一つ目は、私の話ではありませんが、私には、ドイツ人のお父さんと日本人のお母さんをもつお友達がいます。その友達のお母さんが日本からドイツにうつり住んできた時にドイツ人の子どもに石を投げられたそうです。また住んでいた時の話ですが、友達のお母さんが現地の人に両はしを手でひっぱって目を細くしたのを見せられたそうです。そして私の父はアジア人だから電車の席をかわってと言われたことがあるそうです。みんなはだの色や、かみの色、文化がちがうだけで同じ人なのにどうしてそのようなことが起こるのかとても不思議に思います。

いやなことや悪いことを聞いたり見たりしたけれど、良いこともありました。私には弟がいます。ある日弟と私は住んでいたマンションの公園でサッカーをしていました。その時私がボールを強くけりすぎてしまい、子どもの身長ぐらいの木がたくさんあるしげみに、サッカーボールが入ってしまいました。ボールが取れなくてこまっていると、6年生ぐらいのドイツ人の男の子と女の子がやってきました。そして私に、

「どうしたの。」

と聞いてくれました。けれど当時ドイツ語が分からなかった私は何と聞かれているとわからず答えられずにいると、女の子がけい帯のほんやくアプリを見せてくれました。女の子に、

「ここに文字をかいて。」

と言われたので、ボールのことを書くと、男の子がわざわざしげみに入って、サッカーボールを取ってくれました。私はその行動を見

たときうれしくてたまりませんでした。

時ドイツ人でもやさしい人はたくさんいるこ

とが分かりました。そこからほんやくアプリ

を使ってコミュニケーションを取りながらい

っしょに遊びました。その子たちがボールを

かしてくれていっしょに遊んでくれたのもう

れしかったです。私はほんやくきではなく、

自分でコミュニケーションを取りたかったの

で次に会った時に少し英語で話してみると、

その子たちはおどろいて、

「英語勉強したの？すごいね。」

と言ってくれました。他にも弟はイングリッ

シュモンテッソーリプレスクール（EMP）と

いう色んな国せきの子どもがいるようち園に

通っていました。私は最初弟がようち園にな

じめるか心配していましたが、おむかえに行

った時弟がドイツだけではなく、かん国、中

国、ブラジル、インドなど色んな国の子と仲

良く遊んでいて、とても感動しました。そし

て弟は一年ぐらいたつと言葉や文化がちがっ

20 × 20

てもたくさんのお友達ができ、おたん生日会などにもよばれていました。しかも弟の友達のインド人の男の子とお母さんに私もおたん生日会に来てほしいといって招待されました。

私はそこで国や人種のちがいで差別する人はいるけれどそれだけではなく、人種関係なくやさしくしてくれたり、仲良くしてくれる、すてきな外国人の人もいるんだと思いました。

私はあまりようち園の子ども達と話したことはなかったけれど、弟のお姉ちゃんだとみんなに遊びにさそわれて遊んだこともありました。本当にやさしくて、とてもすてきな子達だなと心から思いました。私からもさそうことができて、コミュニケーションをとる、良い経験にもなりました。

このように人種や文化、言葉のカベをこえておたがいをみとめ合い、くらせるような世の中があたり前になると良いなと思いました。

そしてそれが平和な世の中を作るための小さな一歩になるのではないかと心から思います。

そのためには色々な国の言葉や文化を学び、理解していきたいと、とても思います。

相手を思いやり、助け合うと、みんなが気持ち良くすごせる一歩になると思います。だから私も人にやさしく、思いあえる人になります。

20 × 20